

令和3年9月21日

各部局長

前橋市長 **山本龍**

令和4年度当初予算編成にあたって

新型コロナウイルス感染症は私たちの想像を超えた。この状況は予測不能の世界が来る事を私たちに教えている。暮らし方の価値観すら変わるはずだ。未来は経験値からは測れない。ならば前例など頼りに出来ない。自ら能動的に変革していくべきです。

ここが絶好の機会であり、今こそチャレンジする時である。

○未来も大事。現実の痛みも大事

コロナ禍により、市民生活や企業活動、子どもたちの学校生活、医療体制等、社会全体が、大きな痛みを被っている。緊急支援が必要である。

○困ったときはデジタルに相談だ！

政策立案や経費削減、職員の負担軽減、あらゆる行政サービスにデジタルのスパイスを振りかける。

○「ないものねだり」より「あるものを活用」

空いた土地。公園だって空き地だ。もっと使える。市役所にアイデアが無くても市民のアイデアを引き出そう。

○一人では無理です。誰かに悩みを相談しよう。立ち話が大切！

市役所は市民を信頼し結びあって。市民は市民同士が信頼し結びあって。貴方が穴に落ちたとき、手をさし伸ばしてくれる仲間が大切です。ちょっとした立ち話をしましょう。

○信頼から始めよう。

前橋市は様々な挑戦中です。明日は今日の課題が解決できる。それが挑戦の意味です。

○先が読めない。予想不能だ。だから先に変化を起こす

5年先は社会が変わっている。携帯電話がさいころサイズになる。追いつけない。こっちが先に進めばいい。

○皆さんに楽しく仕事をしてほしい。

もし、今の職場が楽しくないなら、楽しくなるように改善してほしい。そして40年の公務を人生の糧にして次の40年の人生を迎えてほしい。

以上が、市長である山本龍が考える「これからの予算に盛り込むべき理念」である。詳細は、財務部長通知を参照し、各部局において予算要求いただきたい。

なお、行政が行うすべての事業は、的確な情報発信、説明責任が求められる。その意味からも、市民や企業、団体、議会からの意見に真摯に耳を傾け、真に必要な予算であるかを再精査いただきたい。